

「大東市の景観の懐かしさとなじみに関する研究」

大阪産業大学大学院 人間環境学科 吉田 香
大阪産業大学 人間環境学部 金澤成保

1. 研究の背景と目的および方法

本研究は、大東市の人々がどのような風景に懐かしさやなじみを抱いているかを明らかにすることを目的として実施した調査の報告である¹⁾。大東市は、大阪府東部の人口13万人の郊外都市で、1960年代以降の急激な人口増加に伴い都市化が進んだ。生駒山系から諸河川が西流して寝屋川に注ぐ扇状地にある。1972年と75年の集中豪雨と河川氾濫で多くの市民が水害に見舞われたのをきっかけに河川改修が推進され、コンクリートで固められ、堤防に囲まれた河川や水路が、従来の水辺の風景を塗り替えることになった。

アンケート調査は、大東市民を対象とし、配票調査法（回答者が回答を記入）で行われた。調査項目として、「昔懐かしい風景」について、1) 山や川などの自然景観および、2) 昔からある寺社あるいは祭りや花火などの人工景観の選択肢の中から、各グループについて上位3位を選んでもらい、「今なじみのある風景」について、上記の2グループに加え、3) 新しくできた公共施設などの人工景観の3グループの選択肢の中から、それぞれのグループおける上位3位を選んでもらった。

選択肢は、市の資料やホームページに紹介されている代表的な風景・名所を選び、「自然系」、「人工系 昔からあるもの」、「人工系 新しくできたもの」の3つに分類した。（図1-1は、これらの中で主なものを示している）

また、「失われて残念な風景」については自由回答してもらい、集計段階で7つのカテゴリーに分類された。アンケート調査の結果は、以下にまとめる。



図 1-1 大東市の主な風景および名所

2. アンケート調査結果の分析

アンケート調査は、平成16年10月から11月の期間中数回に分けて、午前10時から午後5時の時間帯に、市内の主要な公共・商業施設（総合文化センター、市役所、深北緑地、住道駅、野崎商店街など）の周辺で行われた。回収された調査票は182件（有効数162件）あり、回答者の属性別内訳は以下の通り（カッコ内は人数）。

性別：男性（77） 女性（85）

年代：20歳未満（22） 20代（28） 30代（29） 40代（25） 50代（31） 60歳以上（27）

住居地：御領（6） 三箇（36） 深野（13） 南楠の里（9） 津の辺町（8） 北条（18） 住道（6）
野崎（6） 諸福（5） 灰塚（14） 川中新町（10） 御供田（19） 寺川（12）

居住歴： 1～10年（39） 11～15年（13） 16～30年（67）
31～40年（21） 41～80年（22）

集計結果の分析は、調査項目別に、全体で上位5位に選択された選択肢と、属性別の上位5位を比較することにより行う。これにより、それぞれの属性に共通のあるいは異なる特徴的なものを明らかにする。

なお、単純集計の結果に対し、上位3位とそれ以下の違いを明確にするために、上位3位にランクしたものはウエイトを加えた（1位=3点、2位=2点、3位=1点）。

昔懐かしい風景 - 自然系

全体および各属性において上位5位にランクインした選択肢を整理したものを表2-1に示す。

性別にみると、男性と女性で多少の順位付けの違いはあるが、全体と同じものが上位5位に選ばれている。年代別では、20歳未満を除く全ての属性において生駒山景、ハイキング道²⁾、深北緑地³⁾が上位3位に、寝屋川が4位か5位に選ばれており、最若年層は、他のグループと異なる傾向を示すことが伺える。居住地別にみると、野崎と諸福以外では生駒山景が1位、北条と諸福以外ではハイキング道が上位3位に選ばれている。

表2 - 1 「昔懐かしい風景-自然系」回答者の属性別にみる上位5位の選択肢

N = 162		生駒山景	ハイキング道	深北緑地	寝屋川	野外活動センター	恩地川	御領水路	辻の新池	谷田川	権現川	その他
属性別内訳	全体	1	2	3	4	5	-	-	-	-	-	-
77	男性	1	3	2	4	5	5	-	-	-	-	-
85	女性	1	2	3	5	4	-	-	-	-	-	-
22	20歳未満	2	4	1	-	3	5	-	-	-	-	-
28	20代	2	3	1	4	5	-	-	-	-	-	-
29	30代	1	2	3	4	-	-	5	-	-	-	-
25	40代	1	2	3	5	-	-	-	4	-	-	-
31	50代	1	2	3	4	5	-	-	-	-	-	-
27	60歳以上	1	2	3	4	-	4	-	-	-	-	-
6	御領	1	3	3	3	-	-	2	-	-	-	-
36	三箇	1	3	2	4	5	-	-	-	-	-	-
13	深野	1	2	2	4	3	-	-	-	-	-	-
9	南楠の里	1	2	2	3	-	-	4	4	4	4	-
8	津の辺町	1	2	3	-	5	-	4	-	-	-	-
18	北条	1	4	2	-	3	-	-	-	-	-	5
6	住道	1	2	-	3	-	3	-	-	4	4	-
6	野崎	2	1	4	-	-	-	-	3	-	-	5
5	諸福	2	-	4	1	-	3	-	4	-	-	2
14	灰塚	1	2	4	3	5	-	-	-	-	-	-
10	川中新町	1	3	2	4	-	-	5	-	-	-	-
19	御供田	1	2	3	-	5	4	-	-	-	-	-
12	寺川	1	2	3	5	5	4	5	5	-	-	-
39	1 - 10年	1	3	2	5	4	-	5	-	-	-	-
13	11 - 15年	1	3	2	-	5	4	5	5	-	-	-
67	16 - 30年	1	2	3	5	4	-	-	-	-	-	-
21	31 - 40年	1	2	4	3	5	-	-	-	-	-	-
22	41 - 80年	1	3	4	2	-	-	-	4	-	5	-

また、諸福では寝屋川が1位（他では3位以下）で、選んだ人の割合も高く（最も低い寺川と比べて18ポイント）、他のグループとは異なることが伺える。

深北緑地が所在する深野とその両隣に位置する三箇、南楠では深北緑地が2位となっており（他では3位以下）、地域にあるものを懐かしいと感じる傾向が伺える。

居住歴別では、全てのグループで生駒山景が1位、ハイキング道が2位か3位に選ばれており、大東市に住んでいる年月にかかわらず、人々がこれらの風景になつかしきを感じることが分かる。

今なじみのある風景 - 自然系

図2-1と同様の図を「今なじみのある風景 - 自然系」および、後述の調査項目について作成して分析した結果を、文章にまとめる。全体の順位は1位から5位まで、深北緑地、生駒山景、寝屋川、ハイキング道、恩地川となっている。昔懐かしい風景の上位2位が後退し、3位だった深北緑地が1位に上昇していることから、人々にとって懐かしい風景と今なじみのある風景は異なることが伺える。

男女別では、男性と女性で生駒山景と深北緑地の順位が逆転している以外は全て全体と同じ順位。年代別にみると、20歳未満と60歳以上での順位が深北緑地1位、深北緑地2位、寝屋川4位（他の年代では3位）となっており、他のグループとは異なる傾向を示していることがわかる。

居住地別では、順位づけが地域別に異なることから、今なじみのある風景は地域によって違うことが分かる。また、ハイキング道のある野崎で、順位が2位（他では3位以下）、選んだ人の割合が全体より15ポイント高くなっており、人々は地域内にあるものに、他の地域の人々よりも今なじみを抱くことを示している。居住歴別では、1-10年を除く全てのグループで深北緑地が1位、生駒山景が2位。また、11-15年を除く全てのグループで寝屋川が3位となっており、上位3位は全体とほぼ同じである。

昔懐かしい風景 - 人工系 昔からあるもの

全体では、1位 野崎観音⁴⁾、2位 だんじり⁵⁾、3位 市民祭り⁶⁾、花火⁷⁾、5位 菅原神社 三箇⁸⁾となっている。男女別では、上位2位は全体と同じで、それ以下は多少の違いがある。年代別の特徴としては、20歳未満と40代では菅原神社 三箇がランク外（他の全てのグループでは3位）、北条神社⁹⁾が5位に選ばれている。居住地別では、三箇と諸福を除く全てのグループにおいて野崎観音が1位で、それ以下の順位づけは、住居地によって様々である（たとえば、だんじりは地域によって1位からランク外）。川中新町以外の地域では市民祭りが、野崎と諸福以外では花火がランクインしており、これらも地域の枠を超えて共通に懐かしい風景と認識されていることがわかる。

また、地域内に所在する神社は、その地域でランクインする傾向にある（例：御領では菅原神社 御領¹⁰⁾が3位、三箇では菅原神社 三箇が3位、住道では住吉神社¹¹⁾が3位、諸福では菅原神社 諸福¹²⁾が1位など）。居住歴別にみると、グループによって選ばれたものも、順位も異なっている（たとえば、3つのグループで野崎観音以外が1位となっており、半数がだんじりを2位に、半数はそれ以外を選んでいる）。

今なじみのある風景 - 人工系 昔からあるもの

全体の1位から5位は、野崎観音、だんじり、市民祭り、花火、菅原神社 三箇。男女別でも、1位から3位までは全体と同じ。年代別では、全てのグループにおいて野崎観音が1位となっている。また、年代別に順位付けは異なるものの、だんじりと市民祭りも全てのグループにおいてランクインしている。

なお、20歳未満では菅原神社 三箇はランク外（他の全てのグループで2～5位）で、若年世代は年上の世代と比べて神社になじみを抱いていないと解釈したくなるが、北条神社が5位に選ばれていることから、そのような解釈は正しくないと思われる。

居住地別では、地域によって選ばれたものも、順位も異なる。たとえば、三箇、津の辺町、野崎では野崎観音以外が1位に選ばれており、全体では2位のだんじりも地域によって順位が1～5位と異なる。なお、寺川で「だんじり」を選んだ人の割合（35%）は、全体と比べて18ポイント高く、寺川の人々が持つ、だんじりへのなじみは、他の地域の人々に比べて強いと捉えられる。また、「昔懐かしい」と同様に、地域内の神社は、その地域で高位に選ばれている（例：三箇で菅原神社 三箇が1位、諸福で菅原神社 諸福が2位など）。居住歴別では、全てのグループで、だんじり、市民祭り、花火がランクインしており、これらの選択肢は各グループに共通になじみのあるものと考えられる。

今なじみのある風景 - 人工系 新しく出来たもの

全体の順位は、住道駅 1位、総合文化センター¹³⁾2位、サンメイツ¹⁴⁾3位、JJクラブ¹⁵⁾4位、四条畷駅、ポップタウン¹⁶⁾、ダイエーが5位。男女別では、1位と3位が全体とおなじで、男性ではランク外のダイエーが、女性の5位に選ばれている。年代別の特徴として、20歳未満で学校が1位、60歳以上でウォールペインティング¹⁷⁾が3位（いずれも他のグループではランク外）となっていることが挙げられる。

居住地別にみると、地域によって順位は異なるが、全てのグループにおいて総合文化センターが、津の辺町以外のすべてのグループにおいて住道駅がランクインしており、これらの選択肢も各地域で共通になじみのある風景といえよう。なお、選択肢には3つの駅が含まれるが、地域に最寄の快速電車停車駅が高位にランクインしているように伺える（例：南楠の里で四条畷駅が1位；北条と野崎でも四条畷駅が3位）。なお、野崎においてのみ野崎商店街がランクインしているのは、地域内に所在するものがその地域で選らばれる傾向を示していると解釈できよう。居住歴別にみると、居住年数によって順位が異なるものの、全てのグループにおいて住道駅が1位か2位、総合文化センターが1～3位、サンメイツが3～5位にランクインされており、これらは居住年数を問わず、新しく出来た人工物の中でもなじみのある風景となっていると解釈できよう。

失われて残念な風景

調査票への自由回答は、その内容に基づいて7つのカテゴリーに分類された（図2-2参照）。市内で最も減少率の高い田畑¹⁸⁾が1位になっていることがわかる。また、川に関する具体的な回答をみると、川そのものの景観だけでなく、蛭やつくしなどの生態系および水のきれいさも含めて、失われたことに対する残念な気持ちが述べられている。

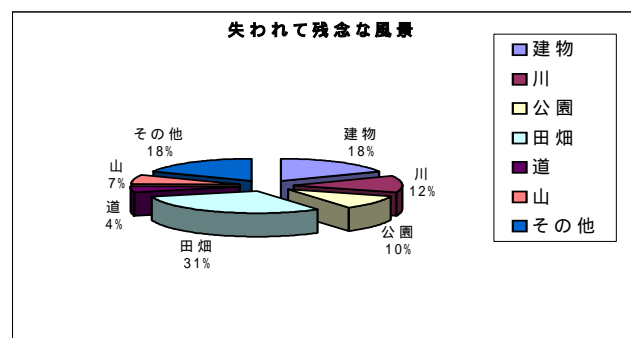


図2-1 失われて残念な風景

3. まとめ

今回のアンケート調査の結果、生駒山景や寝屋川に代表される大東市の自然景観および野崎観音や各地神社に奉納されているだんじりは、大東市民に共通の昔懐かしく、なじみのある風景であることが明らかになった。これは、市の文化振興懇話会による提案や、市民アンケートの結果と同様で、注目すべきことと思われる。また、今回の調査では、人々は自分の地域内にあるものに対して、他の地域の人々よりも懐かしみやなじみを感じるようになった。この特徴は、地域内の神社を懐かしい・なじみがあると回答した人々の割合が、他の地域と比べて多いことから伺える。

大東市の人々が心に抱く「昔懐かしい風景」および「なじみのある風景」とは、市の東部に広がる生駒山系と、そこから市内を西へ流れる寝屋川水系によって大きな枠組みが作られており、それぞれが根ざす地域にある自然や建物・風習が詳細と彩りを加えることによって完成される、一枚のキャンパス画のように捉えることができるのではないだろうか。

今後の研究課題を考えると、次のようなものが挙げられる。

- ・「懐かしさ」および「なじみ」の定義
- ・選択肢の選び方（行政資料およびホームページだけで十分かどうか）
- ・代表性をもたせる場合の調査数
- ・調査方法（大東市民を母集団とする無作為抽出サンプルを対象とする場合は、郵送あるいはメール）
- ・数量解析を用いる場合の分析方法（各属性と選択肢の相関、属性別特徴や傾向のクラスター分析など）
- ・自由回答の内容の分析方法（文章内のキーワードをもとにKJ法を用いてグループ化するなど）

また、調査項目として大東市の都市計画やまちづくりに関連するもの（たとえば、市の自然環境や景観、文化歴史的建物や風習の保存や振興のための計画、施策あるいは取り組みについての認識、参加状態、参加意思などの質問項目）を加えることにより、大東市の昔懐かしい風景・なじみのある風景と、住民参加によるまちづくりの関連について調べることも可能であろう。また、同じテーマを継続的に扱い、経年変化の分析研究に取り組むことも今後検討すべき課題といえる。

注記

- 1) 久富建二、川西裕二、宮脇正典による大阪産業大学人間環境学部の卒業研究（平成16年度）の調査成果に基づいている。
- 2) 正式名称は野崎飯森ハイキング道。野崎観音と大東市立青少年野外活動センターを結ぶ
- 3) 寝屋川の治水機能とレクリエーション機能を兼ね備えた府立公園。
- 4) 福聚山慈眼寺。江戸時代に本尊の十一面観音をお参りする「野崎参り」の風習がおこる。
- 5) 大東市内34地区各地の神社に奉納される。菅原神社 三箇のものが特に規模が大きい。
- 6) 正式名称は大東市民祭り。1978年から毎年開催されている。
- 7) 大東市民祭りの一環として、2003年まで毎年深北緑地で開催されていた花火大会。
- 8) 住道地区古来の氏神社。地元では「三箇（さんが）の宮さん」と呼ばれ親しまれている。
- 9) 八幡大神と菅原道真を祀る。戦国期は代々の飯盛城城主の守護神と仰がれた。
- 10) 従来は、御領の開拓者といわれる11軒の中から1年交替で神主役を務めていたが、現在は特定の家がこれに当たっている。
- 11) 舟運送が盛んだった時代に、航海守護の神として住吉大社から勧請したと推測される。「すみのどう」地名の由来とする説もある。
- 12) 正式名称は諸福天満宮。10月の秋の大祭には大小の地車（だんじり）が曳かれる。
- 13) コンサートホール、図書館、歴史民族資料館などから成る、総合市民文化センター。
- 14) 住道駅北側に隣接する大型スーパー。屋上にはゲームセンターや広場がある。
- 15) ポップタウン内にある24時間営業のレジャー施設。ボーリングやカラオケ、ビリヤード、卓球などのゲームや施設がある。
- 16) 住道駅北側に位置する、飲食店や専門店を含む複合型商業施設。1番館から5番館までである。
- 17) 住道から深北緑地をつなぐ寝屋川護岸沿いの全長約1kmの壁画ギャラリー
- 18) 市制当事の1945年と2001年の面積で比較すると、田は約13分の1となり、畑は20%減少した。